

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第5区分

【発行日】平成20年7月31日(2008.7.31)

【公表番号】特表2008-502820(P2008-502820A)

【公表日】平成20年1月31日(2008.1.31)

【年通号数】公開・登録公報2008-004

【出願番号】特願2007-527758(P2007-527758)

【国際特許分類】

D 0 1 F 6/92 (2006.01)

C 0 8 L 67/02 (2006.01)

C 0 8 K 5/3492 (2006.01)

C 0 8 K 5/00 (2006.01)

C 0 8 K 3/00 (2006.01)

C 0 8 J 7/14 (2006.01)

D 0 1 F 6/62 (2006.01)

D 0 6 M 13/358 (2006.01)

D 0 6 P 3/52 (2006.01)

【 F I 】

D 0 1 F 6/92 3 0 1 R

C 0 8 L 67/02

C 0 8 K 5/3492

C 0 8 K 5/00

C 0 8 K 3/00

C 0 8 J 7/14 C F D

D 0 1 F 6/62 3 0 6 P

D 0 6 M 13/358

D 0 6 P 3/52 Z

【手続補正書】

【提出日】平成20年6月9日(2008.6.9)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ポリ(トリメチレンテレフタレート)、染料、およびベンゾトリアジン誘導体UV吸収剤を含む、試験方法AATCC方法16-1998を用いて488kJ入射UV放射線の露光後に4以上の耐光堅牢度を有する着色繊維。

【請求項2】

- a. ポリ(トリメチレンテレフタレート)繊維を提供する工程と、
- b. ベンゾトリアジン誘導体UV吸収剤を含有する水溶液を含有する染浴を提供する工程と、
- c. 前記染浴のpHを約4~約6に調整する工程と、
- d. 前記染浴を105~145の温度に加熱する工程と、
- e. 前記ポリ(トリメチレンテレフタレート)繊維を前記染浴に浸漬する工程と、
- f. 染浴温度を少なくとも約30分間維持して染色されたポリ(トリメチレンテレフタレート)繊維を生成する工程と、

g . 前記染浴を放冷する工程と、

h . 前記染色されたポリ(トリメチレンテレフタレート)繊維をリンスする工程とを含む、染色されたポリ(トリメチレンテレフタレート)繊維の製造方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0070

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0070】

本発明の実施形態の前述の開示は、例示および説明の目的のために提示されてきた。包括的であることまたは開示された厳密な形に本発明を限定することは意図されない。本明細書に記載された実施形態の多くの変形および変更は、本開示を踏まえて当業者には明らかであろう。

次に、本発明の好ましい態様を示す。

1. ポリ(トリメチレンテレフタレート)、染料、およびベンゾトリアジン誘導体UV吸収剤を含む、試験方法AATCC方法16-1998を用いて488kJ入射UV放射線の露光後に4以上の耐光堅牢度を有する着色繊維。
2. 前記繊維中のポリマーの総量を基準にして、少なくとも80モル%のポリ(トリメチレンテレフタレート)を含む上記1に記載の着色繊維。
3. 少なくとも70モル%のトリメチレンテレフタレート繰り返し単位を含有するポリ(トリメチレンテレフタレート)を含む上記1または2に記載の着色繊維。
4. 少なくとも98モル%のトリメチレンテレフタレート繰り返し単位を含有するポリ(トリメチレンテレフタレート)を含む上記1~3のいずれか一項に記載の着色繊維。
5. 試験方法AATCC方法16-1998を用いて779kJ入射UV放射線への露光後に4以上の耐光堅牢度を有する上記1~4のいずれか一項に記載の着色繊維。
6. 前記染料がCIディスパース・レッド(Disperse Red)86、CIディスパース・レッド91、CIディスパース・レッド161、CIディスパース・レッド279、CIディスパース・イエロー(Disperse Yellow)42、CIディスパース・イエロー96、CIディスパース・イエロー160、CIディスパース・ブルー(Disperse Blue)27、CIディスパース・ブルー60、およびCIディスパース・ブルー77から選択される上記1~5のいずれか一項に記載の着色繊維。
7. 前記繊維の重量を基準にして2~4重量パーセントのベンゾトリアジン誘導体UV吸収剤を含む上記1~6のいずれか一項に記載の着色繊維。
8. 前記初期テナシティが試験方法AATCC方法16-1998を用いて試験された時に481kJ入射UV放射線での露光後に約10%以下だけ低下する、初期テナシティを有する上記1~7のいずれか一項に記載の着色繊維。
9. 試験方法AATCC方法16-1998を用いて488kJ入射UV放射線の露光後に4~5の耐光堅牢度を有する上記1~8のいずれか一項に記載の着色繊維。
10. ポリ(トリメチレンテレフタレート)が0.80~1.5dl/gの固有粘度を有する上記1~9のいずれか一項に記載の着色繊維。
11. a . ポリ(トリメチレンテレフタレート)繊維を提供する工程と、
b . ベンゾトリアジン誘導体UV吸収剤を含有する水溶液を含有する染浴を提供する工程と、
c . 前記染浴のpHを約4~約6に調整する工程と、
d . 前記染浴を105~145の温度に加熱する工程と、
e . 前記ポリ(トリメチレンテレフタレート)繊維を前記染浴に浸漬する工程と、
f . 染浴温度を少なくとも約30分間維持して染色されたポリ(トリメチレンテレフタレート)繊維を生成する工程と、
g . 前記染浴を放冷する工程と、
h . 前記染色されたポリ(トリメチレンテレフタレート)繊維をリンスする工程と

を含む、染色されたポリ(トリメチレンテレフタレート)繊維の製造方法。

12. 前記染色された繊維がAATCC方法番号16-1998による448kJ入射UV放射線での露光後に4以上の耐光堅牢度を有する上記11に記載の方法。

13. 前記繊維がAATCC方法番号16-1998を用いて488kJ入射UV放射線での露光後に4~5の耐光堅牢度を有する上記11~13のいずれか一項に記載の方法。

14. 前記繊維がある初期テナシティを有し、そして前記初期テナシティがAATCC方法番号16-1998を用いて488kJ入射UV放射線での露光後に約10%以下だけ低下する上記11~14のいずれか一項に記載の方法。